

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H04352

研究課題名(和文) 地域に根ざした介護予防プログラムの構築 日タイ比較研究から実践的介入への挑戦

研究課題名(英文) Developing community-based programs for frailty in elderly people: an action research on primary care interventions in Thailand and Japan

研究代表者

木村 友美 (Kimura, Yumi)

大阪大学・大学院人間科学研究科・講師

研究者番号：00637077

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、文理融合の多分野の研究者らと医療実務者らの協働により、実践的地域研究の立場から日本とタイにおける高齢者の「フレイル」の実態を探求し、地域に根ざした介護予防モデルを構築することを目標とした。新型コロナウイルス感染症の拡大によって研究計画の変更が生じたものの、コロナ禍における高齢者の健康状態および予防行動に注目した調査を実施することができ、期待を上回る学術的成果をあげることができた。一方で、予定していた介入研究(介護予防プログラムの実施)については、集団を対象とする介入が困難であったことから、現地の医療スタッフと共に個別の運動指導や健康相談等を行う計画へと変更し実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナウイルスの感染症拡大によって、感染に対し脆弱性をもつ高齢者の孤立や体力低下がより深刻な課題となるなかで、フレイルを多角的に再検討する意味においても、本研究(感染症拡大下での高齢者の健康行動の実態、経年的ADL低下の発生、社会的因子をふくめたフレイルの関連因子の状況、等)の分析・報告は意義のあるものであったと考える。今後は、現在解析中の結果もふまえ、介護予防の実践に重点をおいた研究を行いたい。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to explore “frailty” among older adults by the multi-disciplinary research approach and to develop a community-based model of Kaigo-yobo (prevention of being dependent and in need of long-term care) in Thailand and Japan. Although the research plan had to be modified from the original form due to the COVID-19 pandemic, we were able to conduct a survey focusing on the health status and preventive behaviors of the elderly during and after the pandemic, and succeeded to publish the academic results more than expected. On the other hand, the intervention study could not be fully implemented due to the difficulty of conducting interventions targeting a older population due to the infection control, thus individual exercise guidance and health counseling were conducted with local medical staffs in addition to on-site surveys.

研究分野：公衆衛生学

キーワード：介護予防 フレイル 食事摂取状況 口腔機能 地域在住高齢者 タイ 実践型地域研究

1. 研究開始当初の背景

要介護状態の前段階とされる「フレイル（虚弱性）」への予防的介入は、介護保険財政が逼迫する日本と、制度が未整備で家族の介護負担が深刻化しているタイの双方にとって喫緊の課題であり、社会保障に拠らない新たな介護予防アプローチが求められている。一方で、タイ語で「Frailty」にあたるものは、統一された用語がなく、「要介護」の期間に関するデータは十分でないため高齢者のフレイル、要介護への移行の実態は未だ不明な点が多い。米国老年医学会が提唱し広く用いられている Fried のフレイル指標は、歩行速度、握力低下などの 5 項目で評価する指標であり、主に身体的機能を評価している。筆者らは先行研究として、この指標を用いてタイの地域在住高齢者を対象に調査をした。その結果、フレイルと口腔機能との関連が見られた一方で、その他の健康状態を反映していないことが明らかになった (Iwasaki M, et al. 2018)。このことから、精神的健康、および社会・文化的背景を考慮した指標の必要性が明確となった。

タイと日本では、医療や介護に関わる制度の整備状況やその背景において大きな違いがある一方で、人口高齢化による諸課題が深刻な社会問題の一つとして顕在化してきている共通点がある。介護問題の解決を地域・コミュニティに求める動きも高まり、「介護予防」は地域の課題として一層重要になってきた。そこで筆者らは、文理融合の実践的地域研究の立場から、高齢者の「フレイル」の実態を探求し、地域に根ざした介護予防モデルを構築することを目標とした。

2. 研究の目的

本研究は、タイと日本において、文理融合の多分野の研究者と医療実務者らの協働により、高齢期の「フレイル」の実態を、社会的また文化的側面から明らかにし、地域の特性にそくした新たなフレイル指標を開発することを目的とした。さらに、5 年間の研究で、対象者の縦断的な変化を追うことで、フレイルやそれを取りまく因子の段階的な変化と、予防介入の効果についても、量的および質的なデータから検証する。最終的には、フレイル高齢者をスクリーニングし、介護予防の取組みにつなげることを実践的な目標とした。

3. 研究の方法

(1) 研究開始当初の研究計画

本研究は、5 年間を通じて 3 つのフェーズ：①タイと日本におけるフレイルの実態を把握し、新たなフレイル指標を開発する、② 新たなフレイル指標を適用し、地域でのフレイルのスクリーニングを行う、③ 抽出されたフレイル高齢者に対して介護予防の実践を行う。それぞれを A. 質的研究、B. 量的研究、C. 実践的研究の 3 つのドメインで実施する。

地域の特徴をより明確にするため、日本とタイにおける都市部と農村部（計 4 地域）にて、質的および量的研究を、文理融合の研究者らにより実施する。

方法 A：質的研究

調査地域において、高齢者のフレイルの実態について質的インタビューを行う。

内容：高齢者自身のフレイルの捉えかた、日常生活、食生活、教育・生業・職業の経経済状況、家族関係、親族関係、コミュニティの形態と活動、信仰と仏教関連活動など

方法 B：量的研究

【調査地・対象】 下記対象に対し、総合機能健診を実施。(農村：全戸対象、都市：ランダムサンプリング)

日本：高知県土佐町の地域在住高齢者* 300 人

京都府京都市西京区の高齢者住宅 150 人

タイ：ナコンパトム市ムアン地区の地域在住高齢者 300 人

健診により、各地域から約 10% のフレイル高齢者を抽出し、対象者に介護予防プログラムを実施

*地域在住高齢者：入院・入所の者を除く 65 歳以上の地域に暮らす高齢者
得られたデータは統計学的に分析し、地域ごとの集団の傾向を比較する。

方法 C: 実践・還元

各健診後に、個人と地域保健センターに結果説明を行う。各フェーズで最低 1 本の学術論文にて研究成果の公表、および介護予防プログラム実施後は報告書を地域に還元する合わせて考察する。

(2) COVID-19 感染症拡大以降の研究計画の変更

2019 年度に本課題が採択された後、当初の計画通り、高知県土佐町およびタイ・ナコンパトムにおいて各地約 200~300 名分の健診を実施しフレイルと関連項目に関するデータを収集した。また、初年度は質的研究を中心とした調査を実施するため、研究代表者の木村は 2019 年 9 月にタイ・ナコンパトムにおいて一か月滞在し、タイの高齢者のフレイルへの意識やその対応に関するインタビュー調査を行った。しかしながら、COVID-19 感染拡大のため初年度の 2020 年 3 月以降、現地への渡航が困難となった。また、高齢者を対象とする本研究において、感染症による死者も多く出ていた高齢者層への働きかけは、日本国内においても厳しい状況であった。

そこで、当初の計画を変更し、2020 年~2021 年度はまず下記の 3 点を実施した。

渡航困難期間中の調査内容

1) 過去の調査データの整理と文献レビュー

調査地における過去の調査データをフレイルの文脈に沿って分析しなおし、フレイルおよび介護予防関連の文献レビューやその他調査データを活用し、整理・分析した。

2) 感染症拡大下における高齢者の健康と食生活の実態調査

郵送アンケートや個別インタビュー（人数を制限）を日本国内でまず実施し、訪問可能な近隣のデイケア等において高齢者の健康行動に関する調査を実施した。

3) スマートフォンを用いたバーチャルな介護予防の実践

1 人暮らしの高齢者を対象に、スマートフォンのアプリケーションである LINE を用いた「スマホ食事クラブ」を計画・実施し、高齢者の孤立と心理的健康への効果を検証した。

2022 年度からタイのナコンパトムおよび高知県土佐町において高齢者の健康に関する健康診断を再開することができた。コロナ前に健診を実施した対象者において、コロナ後である 2022 年の状況を経年的な変化として分析した。また、2022 年度の健診時において 5 年前と比較して ADL（日常生活動作）を維持できていた高齢者を抽出し、家庭訪問をおこないインタビュー調査を実施した。2023 年度は、その結果を量的に分析し、コロナ前に身体的な健康度（ADL 等）が保たれていた高齢者の行動（食事や運動、文教活動など）についての具体的な状況を調査した。これらの調査により、フレイルへの対応としての介護予防行動だけでなく、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による健康行動の変容についても、貴重なデータを得ることができた。2023 年度に新たにナコンパトムで計 19 名、高知県土佐町で 8 名の高齢者宅の家庭訪問および個別インタビューを行い、2024 年 5 月現在、それらのデータを分析中である。

4. 研究成果

(1) 高齢者のフレイルと身体的自立度、社会活動および栄養・口腔に関する研究

まず、本研究の対象地域における高齢者の過去の健診データを量的に解析し、フレイルの関連因子を日本とタイの高齢者で比較した。その結果、土佐町の高齢者ではフレイルに関連する因子として ADL、栄養状態および口腔機能等が関連していることが明らかになった一方で、ナコンパトムの高齢者においては経済状況、教育歴および喫煙状況等の生活背景が関連していることが明らかになった（図 1、Kimura Y et al. 2022）。

フレイルに関連する身体的

Table 4: List of the factors related with frailty in Tosa and Nakhon Pathom

Factors related with frailty	Significant relation found
Lower scores of basic ADL	Tosa Only
Lower scores of advanced ADL (social activity)	Tosa Only
Nutrition deficiency (low BMI, poor food diversity)	Tosa Only
Lifestyle backgrounds: low monthly income, less education year, and more smokers	NP Only
Poor oral health status (less number of teeth, poor chewing ability)	Tosa & NP

図1 土佐町とナコンパトム (NP) におけるフレイルとの関連項目の比較 (Kimura Y 2022 より)

自立度（ADL 等）の低下の背景を分析し、さらに両地域の高齢者に関連がみられた社会活動（Social ADL）にも着目した分析もおこなった（Kwanchit et al 2024）。

フレイルに関連していた口腔機能にも注目し、岩崎らはオーラルフレイルをフィールドで簡単に調査する「Oral frailty 5-item Checklist : OF-5」を開発した。この 5 項目は「残存歯数の減少」、「咀嚼困難感」、「嚥下困難感」、「口腔乾燥感」、「滑舌低下（舌口唇巧緻性低下）」とし、この内 2 つ以上該当の場合にオーラルフレイルと定義するもので、解析対象者 1206 名（平均年齢 74.7 歳）を用いて有用性を報告した。オーラルフレイルは多様性の低い食事、社会的孤立を介して間接的に身体的フレイルに影響を与えていたことも明らかになった（Iwasaki M et al. 2024）。

また、コロナ禍の活動自粛期間は結果として、高齢者の孤立の状況がどのように健康に影響するかを短期間で検証するデータを得ることもつながった。高齢者の会話減少が孤食や口腔機能の悪化、および抑うつ傾向と関連していたこともアンケート調査による量的研究から明らかとなった（Ishimoto Y et al. 2024）。

(2) 感染症拡大下における高齢者の包括的健康度の実態調査と実践的研究

COVID-19 感染症拡大により、高齢者は感染への脆弱性だけでなく、活動自粛による身体活動量の減少や孤立、食習慣の悪化等が報告されていた。そこで筆者らは、高知県土佐町に居住の 75 歳以上の地域在住高齢において、感染症拡大による主観的運動量および食事量の変化と、ADL との関連を明らかにすることを目的とし郵送による質問紙調査を実施した。2019 年および 2021 年の両年の自記式質問紙調査に回答した 301 人のデータ分析から、運動量が減少したと回答した対象者は、男性：15.9%、女性：22.9%であり、これらの割合が先行研究よりも比較的少なく、農村地域においては運動量の低下や ADL との関連は 2021 年時点では見られなかった（木村ら 2022）。さらに、同様に地域在住高齢者を対象としたインタビュー調査（対象者 21 人）からは、外出自粛期間中（2020 年 4、5 月頃）の体力低下の状況と食生活を含めた日常生活の行動について背景要因を質的に分析したところ、予防行動（運動や食事改善）にいたる背景として、高齢者の過去の経験や記憶が健康行動において重要な役割をもつことを明らかにした（Kimura Y, et al. 2022）。また、高知県土佐町の健診参加者を対象として、スマートフォンのアプリケーションである LINE を用いた（Sasaki R, Haapio-Kirk L, Kimura Y. 2021）。

タイにおいても行動規制がされていた 2022 年 3 月に現地に赴き、現地の保健センターにおいて医療関係者やヘルスポランテアを対象としたインタビュー調査を実施した。この時点ではまだ高齢者に接することがためらわれたものの、同年 9 月から徐々に家庭訪問による個別インタビューが可能となった。コロナ禍における高齢者の状況や健康行動に関して、日本とタイで文化的背景をふまえた考察を行い報告した（木村ら 2022）。

(3) フレイルと身体的自立度に関する縦断的フォローアップ調査

2022 年 12 月から 2023 年 3 月にかけて、ナコンパトムにおいても高齢者の健診調査を再開することができた。2016 年に調査に参加した 60 歳以上の高齢者 355 人を対象に、現地ヘルスポランテアの協力のもと、個別訪問による調査を実施した。うち、183 人の健康データの入手ができた。追跡できなかった対象者のうち約 50 名はコロナ禍を経た 6 年間の間に死亡や転出（入院や引越し等）があったことを確認した。

縦断的に分析すると、2016 年に ADL が自立していた人（基本的 ADL スコア 20 点および 21 点）156 人のうち、2022 年に ADL 非自立になった人は 34 人（21.8%）であった。2016 年から 2022 年の基本的 ADL の得点の変化量をヒストグラムにあらわすと、図 2 のようになる。この結果をふまえ、ADL を維持できて

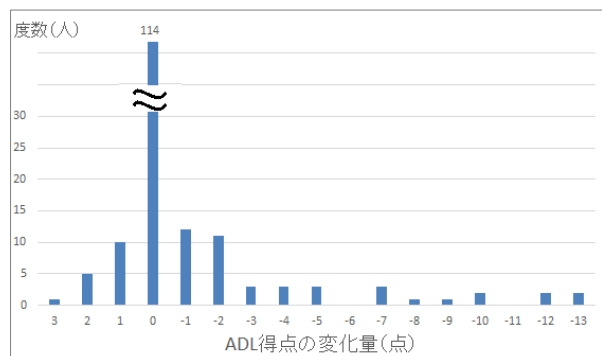


図 2 ナコンパトムの高齢者の 6 年後の ADL 変化

いた高齢者を訪問し、インタビュー調査を行うことで、フレイルの実態と予防行動に関する質的分析を行った。2023年度は、個別インタビューの件数をさらに増やし身体的な健康度（ADL等）が保たれていた高齢者の行動（食事や運動、文教活動など）についての具体的な状況を調査し、分析した。2023年3月にもあらたな訪問調査・インタビューを行い、ナコンパトムで計19名、高知県土佐町で8名の高齢者宅の家庭訪問および個別インタビューの結果と量的分析をあわせて分析を行っている（2024年5月現在）。

(4) 成果の総括

本研究は、文理融合の研究メンバーと医療実務者らの協働により、実践的地域研究の立場から高齢者の「フレイル」の実態を探索し、地域に根ざした介護予防モデルを構築することを目標とした。新型コロナウイルス感染症の拡大によって高齢者を対象とした健診が困難になったため、計画には約2年の遅れが生じたものの、本研究期間の5年間において、書籍および査読付き原著論文を合計40本、査読無し論文・報告および学会発表は16回以上と、期待を上回る学術的成果をあげることができた。感染症の拡大によって、高齢者の孤立や体力低下がより深刻な課題となるなかで、フレイルを多角的に再検討するうえでも本研究（感染症拡大下での高齢者の健康行動の実態、経年的ADL低下の発生、社会的因子をふくめたフレイルの関連因子の状況、等）の分析・報告は意義のあるものであったと考える。

一方で、予定していた介入研究（介護予防プログラムの実施）および地域の介護予防運動への還元については、集団を対象とする介入が困難であったことから、十分に実施できなかった。訪問調査に加えて個別の運動指導や健康相談等を、現地の医療スタッフと共に実施することとどまった（図3）。今後は、現在解析中の結果もふまえ、介護予防の実践に重点をおいた研究を行いたい。



図3 タイの高齢者への個別の運動指導の様子

主要な業績

1. Yumi Kimura and Yasuko Ishimoto (2022) 'Frailty among Older Adults in Japan and Thailand: The Perspective of a Preventive Approach.' Kwanchit Sasiwongsaroj, Karl Husa, and Helmut Wohlschlägl (eds.) "Migration, Ageing, Aged Care and the Covid-19 Pandemic in Asia: Case Studies from Thailand and Japan" Geography and Regional Research University of Vienna. pp.113-140. ISBN: 978-3-900830-91-5
2. Sasiwongsaroj K, Kimura Y, Ishimoto Y, Iswasaki M, Kettratad M, et al. Social Activity and Functional Decline among Community-Dwelling Older Adults in Thailand and Japan: A Comparative Cohort Study. *Int J Gerontol*. 2024;18(1):18-23. doi:10.6890/IJGE.202401_18(1).0004
3. 渡辺長. (2022). タイの伝統的ケアの揺らぎ—高齢者ケアを担う家族に対する質的分析—. *東南アジア研究*, 59(2), 235-254.
4. Hayami Y. (2019) Between State and Family: Biopolitics of Elderly Care and a Case of Emerging Communitarity in Northern Thailand. *Southeast Asian Studies*. 8(3):387-412.
5. Iwasaki M, Kimura Y, Yamaga T, Yamamoto N, Ishikawa M, Wada T, Sakamoto R, Ishimoto Y, et al. A population-based cross-sectional study of the association between periodontitis and arterial stiffness among the older Japanese population. *Journal of Periodontal Research* 56(2), 423–431, 2021
6. Sasaki L, Haapio-Kirk L, Kimura Y. (2021). "Sharing virtual meals among the elderly: An ethnographic and quantitative study of the role of smartphones in distanced social eating in rural Japan" *Japanese Review of Cultural Anthropology* 21(2), pp.1-42.
7. Kimura Y, Akasaka H, Takahashi T, Yasumoto S, Kamide K, et al. (2022) Factors Related to Preventive Behaviors against a Decline in Physical Fitness among Community-Dwelling Older Adults during the COVID-19 Pandemic: A Qualitative Study. *Int J Environ Res Public Health*. 15;19(10):6008
8. 木村友美, 石本恭子, クワンチット・サシウオンサロージ (2022) 「社会・文化的観点からの「フレイル」再考—感染症拡大下における生活変化に関する日タイ比較研究から」 *Medical Science Digest*. 48 (5) :154-156.
9. Y Ishimoto, Y Kimura, T Wada, K Hirayama, E Kato, et al. (2024) Association of decreased frequency of conversation with depression, oral function and eating alone: A cross - sectional study of older adults during the COVID - 19 pandemic. *Geriatrics & Gerontology International*, 24: 385–391.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計24件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Iwasaki M, Kimura Y, Yamaga T, Yamamoto N, Ishikawa M, Wada T, SakamotoR, Ishimoto Y, Fujisawa M, Okumiya K, Otsuka K, Matsubayashi K, Ogawa H.	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 A population based cross sectional study of the association between periodontitis and arterial stiffness among the older Japanese population.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Periodontal Research	6. 最初と最後の頁 423-431
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Sasaki L, Haapio-Kirk L, Kimura Y.	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Sharing virtual meals among the elderly: An ethnographic and quantitative study of the role of smartphones in distanced social eating in rural Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jrca.21.2_7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 木村友美	4. 巻 49
2. 論文標題 書評『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』 速水洋子編、京都大学学術出版会	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア歴史と文化	6. 最初と最後の頁 217-222
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kimura Yumi, Iwasaki Masanori, Ishimoto Yasuko, Sasiwongsaroj Kwanchit, Sakamoto Ryota, Wada Taizo, Fujisawa Michiko, Okumiya Kiyohito, Miyazaki Hideo, Matsubayashi Kozo	4. 巻 19
2. 論文標題 Association between anorexia and poor chewing ability among community dwelling older adults in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 1290-1292
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.13792	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Senoo Soichiro, Iwasaki Masanori, Kimura Yumi, Kakuta Satoko, Masaki Chihiro, Wada Taizo, Sakamoto Ryota, Ishimoto Yasuko, Fujisawa Michiko, Okumiya Kiyohito, Ansai Toshihiro, Matsubayashi Kozo, Hosokawa Ryuji	4. 巻 47
2. 論文標題 Combined effect of poor appetite and low masticatory function on sarcopenia in community dwelling Japanese adults aged over 5 years: A 3 year cohort study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Oral Rehabilitation	6. 最初と最後の頁 643-650
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/joor.12949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato Misuzu, Iwasaki Masanori, Minagawa Kumiko, Miyamoto Akane	4. 巻 7
2. 論文標題 Associations Between Periodontal Health/Treatment and Cognitive Impairment: Latest Evidence From Epidemiological Studies	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Current Oral Health Reports	6. 最初と最後の頁 119-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40496-020-00265-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami Yoko	4. 巻 8
2. 論文標題 Between State and Family: Biopolitics of Elderly Care and a Case of Emerging Communitarity in Northern Thailand	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Southeast Asian Studies	6. 最初と最後の頁 387-412
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20495/seas.8.3_387	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村友美、野瀬光弘、松林公蔵	4. 巻 7
2. 論文標題 超高齢社会における孤食と共食 ソーシャル・インクルージョンの観点から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 未来共創	6. 最初と最後の頁 101-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺 長、ジラポン チョンピクン、河森 正人、ヌアンパン ピムピサン、サウイトリ ヴィサヌヨウティン	4. 巻 34
2. 論文標題 タイ東北部ナコンラチャシマ県中心部における要介護高齢者を抱える家族介護者の介護負担感に影響を与える因子の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際保健医療	6. 最初と最後の頁 217 ~ 228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11197/jaih.34.217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hayami Yoko	4. 巻 24
2. 論文標題 Labour of Devotion: Material Construction and Charisma of Saintly Monks in the Myanmar Thai Border Region	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Asia Pacific Journal of Anthropology	6. 最初と最後の頁 18 ~ 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/14442213.2022.2117405	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sasiwongsaroj Kwanchit, Ono Mitsuko, Duangkaew Sutpratana, Kimura Yumi	4. 巻 24
2. 論文標題 Emic and etic perspectives in transnational migration research: methodological reflections of a cross-national research team	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Qualitative Research Journal	6. 最初と最後の頁 194 ~ 204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/QRJ-12-2023-0185	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sasiwongsaroj K, Kimura Y, Ishimoto Y, et al.	4. 巻 18
2. 論文標題 Social Activity and Functional Decline among Community-Dwelling Older Adults in Thailand and Japan: A Comparative Cohort Study.	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 International Journal of Gerontology	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6890/IJGE.202401_18(1).0004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishimoto Yasuko, Kimura Yumi, Wada Taizo, Hirayama Kiichi, Kato Emiko, Tatsuno Mai, Fujisawa Michiko, Kasahara Yoriko, Nakatsuka Masahiro, Nose Mitsuhiro, Iwasaki Masanori, Kakuta Satoko, Hirosaki Mayumi, Okumiya Kiyohito, Matsubayashi Kozo, Sakamoto Ryota	4. 巻 24
2. 論文標題 Association of decreased frequency of conversation with depression, oral function and eating alone: A cross sectional study of older adults during the COVID 19 pandemic	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 385 ~ 391
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14832	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Saengrut Bumnet, Yoda Takeshi, Kimura Yumi, Ishimoto Yasuko, Rattanasathien Rujee, Saito Tatsuya, Chunjai Kanlaya, Miyamoto Kensaku, Sirimuengmoon Kawin, Pudwan Rujirat, Katsuyama Hironobu	4. 巻 19
2. 論文標題 Can Muscle Mass Be Maintained with A Simple Resistance Intervention in the Older People? A Cluster Randomized Controlled Trial in Thailand	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 140 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19010140	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wada Taizo, Ishimoto Yasuko, Hirayama Kiichi, Kato Emiko, Tatsuno Mai, Fujisawa Michiko, Kimura Yumi, Kasahara Yoriko, Fukutomi Eriko, Imai Hissei, Nakatsuka Masahiro, Nose Mitsuhiro, Iwasaki Masanori, Kakuta Satoko, Hirosaki Mayumi, Okumiya Kiyohito, Matsubayashi Kozo, Sakamoto Ryota	4. 巻 22
2. 論文標題 Older adults' preferences for and actual situations of artificial hydration and nutrition in end of life care: An 11 year follow up study in a care home	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 581 ~ 587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14419	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Teramura Akira, Kimura Yumi, Hamada Kosuke, Ishimoto Yasuko, Kawamori Masato	4. 巻 19
2. 論文標題 COVID-19-Related Lifestyle Changes among Community-Dwelling Older Adult Day-Care Users: A Qualitative Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 256 ~ 256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19010256	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Yumi, Akasaka Hiroshi, Takahashi Toshihito, Yasumoto Saori, Kamide Kei, Ikebe Kazunori, Kabayama Mai, Kasuga Ayaka, Rakugi Hiromi, Gondo Yasuyuki	4. 巻 19
2. 論文標題 Factors Related to Preventive Behaviors against a Decline in Physical Fitness among Community-Dwelling Older Adults during the COVID-19 Pandemic: A Qualitative Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 6008 ~ 6008
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19106008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ueno Yui, Iwasaki Masanori, Kimura Yumi, Kakuta Satoko, Masaki Chihiro, Wada Taizo, Sakamoto Ryota, Ishimoto Yasuko, Fujisawa Michiko, Okumiya Kiyohito, Ansai Toshihiro, Matsubayashi Kozo, Hosokawa Ryuji	4. 巻 57
2. 論文標題 Periodontal status is associated with oral function in community dwelling older adults, independent of dentition status	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Periodontal Research	6. 最初と最後の頁 1139 ~ 1147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jre.13051	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tatsuno Mai, Wada Taizo, Kato Emiko, Hirayama Kiichi, Fujisawa Michiko, Kimura Yumi, Ishimoto Yasuko, Hiroasaki Mayumi, Nose Mitsuhiro, Yamada Chika, Kohori Segawa Hiromi, Kasahara Yoriko, Yamamoto Naomune, Okumiya Kiyohito, Matsubayashi Kozo, Sakamoto Ryota	4. 巻 23
2. 論文標題 Association between glucose tolerance and mortality among Japanese community dwelling older adults aged over 75 years: 12 year observation of the Tosa Longitudinal Aging Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 341 ~ 347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14572	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡辺長	4. 巻 59
2. 論文標題 タイの伝統的ケアの揺らぎ 高齢者ケアを担う家族に対する質的分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 235-254
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki Masanori, Ohara Yuki, Motokawa Keiko, Hayakawa Misato, Shirobe Maki, Edahiro Ayako, Watanabe Yutaka, Awata Shuichi, Okamura Tsuyoshi, Inagaki Hiroki, Sakuma Naoko, Obuchi Shuichi, Kawai Hisashi, Ejiri Manami, Ito Kumiko, Fujiwara Yoshinori, Kitamura Akihiko, et al.	4. 巻 67
2. 論文標題 Population-based reference values for tongue pressure in Japanese older adults: A pooled analysis of over 5,000 participants	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Prosthodontic Research	6. 最初と最後の頁 62 ~ 69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2186/jpr.JPR_D_21_00272	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村友美、石本恭子、クワンチット・サシウォンサロージ	4. 巻 48
2. 論文標題 社会・文化的観点からの「フレイル」再考 感染症拡大下における生活変化に関する日タイ比較研究から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Medical Science Digest	6. 最初と最後の頁 154-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki Masanori, Shirobe Maki, Motokawa Keiko, Hayakawa Misato, Miura Kazuhito, Kalantar Lena, Edahiro Ayako, Kawai Hisashi, Fujiwara Yoshinori, Ihara Kazushige, Watanabe Yutaka, Obuchi Shuichi, Hirano Hirohiko	4. 巻 23
2. 論文標題 Validation of self reported articulatory oral motor skill against objectively measured repetitive articulatory rate in community dwelling older Japanese adults: The Otassha Study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 729 ~ 735
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14658	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki Masanori, Shirobe Maki, Motokawa Keiko, Tanaka Tomoki, Ikebe Kazunori, Ueda Takayuki, Minakuchi Shunsuke, Akishita Masahiro, Arai Hidenori, Iijima Katsuya, Sasai Hiroyuki, Obuchi Shuichi, Hirano Hirohiko	4. 巻 24
2. 論文標題 Prevalence of oral frailty and its association with dietary variety, social engagement, and physical frailty: Results from the Oral Frailty 5 Item Checklist	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 371 ~ 377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ggi.14846	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 木村友美、赤坂憲、高橋利士、権藤恭之、神出計、池邊一典
2. 発表標題 コロナ禍での体力低下に対する予防行動 地域在住高齢者を対象とした質的調査から
3. 学会等名 第8回日本サルコペニア・フレイル学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村友美、石本恭子、和田泰三、他.
2. 発表標題 地域在住高齢者の高次ADL低下とフレイルとの関連
3. 学会等名 第62回日本老年医学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kimura Y, Ishimoto Y, Sasiwongsaroj K, Kasahara Y
2. 発表標題 Perceptions of frailty among elderly people: A qualitative study in Japan and Thailand
3. 学会等名 The Nursing Home Research International Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村友美
2. 発表標題 アジア地域における比較研究にむけた食事調査の課題
3. 学会等名 第69回日本口腔衛生学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名	木村友美、坂本龍太、和田泰三、藤澤道子、奥宮清人、石本恭子、加藤恵美子、竜野真維、岩崎正則、松林公蔵
2. 発表標題	農村地域における高齢者の食行動と健康度との関連
3. 学会等名	第61回日本老年医学会学術集会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	石本 恭子, 和田 泰三, 中本 宇彦, 木村 友美, 笠原 順子, 加藤 恵美子, 竜野 真維, 坂本 龍太, 藤澤 道子, 松林 公蔵
2. 発表標題	有料老人ホーム入居高齢者におけるCGA項目の経時的変化に関する検討
3. 学会等名	第61回日本老年医学会学術集会
4. 発表年	2019年

1. 発表者名	木村友美、石本恭子、藤澤道子、和田泰三、野瀬光弘、加藤恵美子、竜野真維、坂本龍太、松林公蔵
2. 発表標題	地域在住高齢者における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う運動量および食事量の変化とADLとの関連
3. 学会等名	第64回日本老年医学会学術集会
4. 発表年	2022年

1. 発表者名	Yumi Kimura, Hiroshi Akasaka, Toshihito Takahashi, Saori Yasumoto.
2. 発表標題	Preventive behaviors against a decline in physical fitness during the COVID-19 pandemic: A qualitative study of community-dwelling older adults in Japan
3. 学会等名	International Conference on Frailty and Sarcopenia Research 2023 (国際学会)
4. 発表年	2023年

1. 発表者名 石本 恭子, 和田 泰三, 木村 友美, 他
2. 発表標題 介護付き有料老人ホーム入居高齢者を対象とした2年後のフレイル移行の関連要因の検討
3. 学会等名 第9回日本サルコペニア・フレイル学会大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 木村友美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 「フィールド栄養学からみた食と健康 インド・ヒマラヤ高地の遊牧民と難民を事例として」志水宏吉, 河森正人, 栗本英世, 檜垣立哉, モハーチ・ゲルゲイ編『共生学宣言』	

1. 著者名 志水 宏吉, 河森 正人, 栗本 英世, 檜垣 立哉, モハーチ・ゲルゲイ, 木村友美, 藤目ゆき, 山本ベバリアン, 澤村信英, 稲場圭信, 渥美公秀, 宮前良平, 山崎吾郎, 山本晃輔, 藤高和輝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 340
3. 書名 共生学宣言	

1. 著者名 渡辺 長, 小島賢久, 米田 裕香, 中込 節子, 糠谷 和弘, 渡辺幸倫, 坂内 泰子, 河森 正人, 郭 芳, 後藤美恵子, 細田 尚美, 柳澤 沙也子, 岩田 研二	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 304
3. 書名 外国人介護士と働くための異文化理解	

1. 著者名 Yumi Kimura and Yasuko Ishimoto (Kwanchit Sasiwongsoroj, Karl Husa, and Helmut Wohlschl, eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Geography and Regional Research University of Vienna	5. 総ページ数 416
3. 書名 Frailty among Older Adults in Japan and Thailand: The Perspective of a Preventive Approach (Migration, Ageing, Aged Care and the Covid-19 Pandemic in Asia: Case Studies from Thailand and Japan)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩崎 正則 (Iwasaki Masanori) (80584614)	北海道大学・歯学研究院・教授 (10101)	
研究分担者	石本 恭子 (Ishimoto Yasuko) (50634945)	川崎医療福祉大学・医療技術学部・准教授 (35309)	
研究分担者	渡辺 長 (Watanabe Osamu) (40742044)	帝京科学大学・医療科学部・講師 (33501)	
研究分担者	坂本 龍太 (Sakamoto Ryota) (10510597)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	速水 洋子 (Hayami Yoko) (60283660)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	河森 正人 (Kawamori Masato) (50324869)	大阪大学・大学院人間科学研究科・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
	タイ	マヒドン大学	タマサート大学